

建設ラッシュの波に乗り

株式会社タケエイ 代表取締役会長

三本 守

MITSUMOTO MAMORU

1968年個人企業として建設廃棄物の収集・運搬・処理を手がけ始める。
1977年武栄建設興業(株)を設立、取締役就任。1983年代表取締役就任。1988年(株)タケエイに社名変更。2010年代表取締役会長就任。(公社)全国産業廃棄物連合会理事、(一社)千葉県産業廃棄物協会副会長、環境省・国土交通省の各種委員会委員など多数歴任。
2018年(公財)日本産業廃棄物処理振興センター理事就任(現任)。



廃棄物処理法(以下「廃掃法」という。)が1970(昭和45)年の公害国会で制定されて50年という節目の年を迎えた。私が建設廃棄物処理を仕事にしてから52年が経ち、まさに日本の産業廃棄物処理の歴史とともに歩んできたという実感がある。

私をこの事業に導いたのは、藤本^{たけし}武志氏である。藤本氏と私は誕生日が1日違いの同い年で、子供のころ隣同士に住んでいた。その後私は転居し、別々の道を歩んでいたが、1968(昭和43)年に再会。彼が前年に興した土木事業と一緒にやろうと誘われた。この頃の屋号は、武志の「武」と繁栄の^{えい}「栄」で「^{たけえい}武栄土木」であった。現在の会社名「タケエイ」はここから来ている。

時代は高度経済成長期。「日本列島改造論」も追い風に空前の建築ブームが起り、建設現場からは大量の廃棄物が発生した。この廃棄物を、当時は現場作業員が資材運搬車の空いた荷台に積み、運転手が捨てて行っていた。専門の業者がおらず、忙しい作業員や運転手が片手間に行っていたのだ。そこに目を付け「まだ誰もやっていない建設廃棄物の収集・運搬・処理を事業にしよう」と閃いた。建設現場を直接回って営業し、廃棄物の処分を請け負うと、面倒な廃棄物処分を任せられるということ

でも嬉ばれた。タケエイの原点である。建設廃材は、かつては東京湾や浦安市一帯など土地造成の埋立材として使われていた。大量生産・大量消費・大量廃棄の時代、建設廃材も山のように出た。目が回るほど忙しく、文字通り寝ずに仕事をしたものだ。

廃掃法制定後には処理業者が急増し、何の規則も無い中で価格競争に走ったため、不適正処理・不法投棄が横行して社会問題となった。そこで同業6社と共に1976(昭和51)年、京浜建設廃材処理業協同組合[現:建設廃棄物協同組合]を設立。処理料金の安定化をはかり、業界の健全化に取り組んだ。ここで理事長を10年間、さらに全国産業廃棄物連合会[現:全国産業資源循環連合会]の理事及び建設廃棄物部会長も務め、業界活動に積極参加するうちに行政や全国の同業他社との接点ができた。これが法改正を始め様々な情報を得ることに繋がり、自ずと10年先を見据えて事業活動を行うようになった。常に先手を打ち、自社処分場や中間処理施設を整備するなど廃棄物処理業としての体制をいち早く確立したからこそ、その後の度重なる法改正にも対応できた。

ビジネスには先見の明が必要不可欠だ。自ら情報を得る行動がいかに重要か、私は今も肝に銘じている。